

第6回 「会員情報交換会（三日会）」

（5月12日／ワークピア横浜）

第6回は、『さがみロボット産業特区』のさらなる展開について～2年目の取組～と題して、県の蛭名喜代作理事兼産業労働局長（4月就任）からお話をいただいたあと、去る2月に開催した「湘南地域懇談会」でもご登壇いただいたダブル技研㈱の和田代表取締役社長と富士ソフト㈱の本田ロボット事業部長にも企業側の取り組みを紹介いただいた。

開会にあたり協会の渡辺副会長（JFEスチール・東日本製鉄所京浜地区副所長）から「ご就任後間もないにもかかわらず、蛭名理事にご快諾いただいた。ロボット特区への関わり方を企業として模索する機会としたい」との挨拶があった。

蛭名理事からは、「県央のロボット特区と東部臨海部の特区、それに県西地域も加えて県全体で“ヘルスケア・ニューフロンティア”の活動を推進していきたい」とのお話があった。



ダブル技研・和田社長からは、「眼を‘D-Vision’、手を‘D-Hand’で、脚・体を‘多用途移動体(Utility Vehicle)’で生活支援ロボットの開発・商品化を進めていきたい」、また富士ソフト・本田事業部長からは、「‘未病’という話があったが、我々は‘介護予防’という視点から、ロボットPALROの活用を現場での検証を通じて推進し、高齢化社会の課題解決に寄与したい」とのお話があった。

交流会は県の田代産業労働局副局長の乾杯で始まり、参加者相互で会社の事業紹介などの情報交換が行われ、小沢副会長（日産自動車・横浜工場長）の閉会挨拶で終了した。

